# BETHEL通信

## 2025年8月号（第265号）

松山ベテル病院　松山市祝谷6丁目1229番地　TEL089－925－5000
ホームページ　https://www.bethel.or.jp/


## 外来看護の見える化を目指して

皆さんは、外来看護についてどういうイメージを持っていますか？？

松山ベテル病院では、通院・入院・訪問診療を行っており、外来看護師は診察の介助や採血業務だけではなく、通院患者さまの検査の介助、入院患者さまへの対応、訪問診療や往診の同行、通院患者さまや訪問診療患者さまにおける多職種との連携・調整など役割が多岐にわたっています。

現在、当院では200名前後の患者さまのご自宅や施設へ医師が訪問し、診察を行っています。住み慣れた地域で患者さまが少しでも長く、安心して療養生活を送ることができるように、外来看護師も通院や訪問診療の患者さまに対して、継続的な外来看護の実践が行えるよう努めています。

現在当院の外来では以下のような取り組みを始めています。

＊通院患者さまに現在の体調や体の動き、ACP（アドバンスケアプランニング）に関する問診を行い、現状と変化があった場合にスタッフ間での情報共有を行う。また、入院や訪問診療へ移行する際の情報共有に活用する。

＊退院して、通院や訪問診療となる場合に退院前カンファレンスへ参加し、継続的なケアが実施できるよう情報共有を行う。

＊ホスピスケアの通院患者さまに対して、IPOS（患者報告型緩和尺度）を使用し、患者さま・医師・看護師が情報の共有を行い、現在の問題点や状況について共通の理解を行う。必要時、多職種への情報提供による介護サービスの検討や訪問診療・訪問看護に関する説明を実施する。

＊予約患者さまが来院されない場合、看護師から連絡を行い、健康状態の確認や残薬の確認を行う。受診予約の取りなおしや主治医への報告、往診等の対応を実施する。また、受診時に体調の変化がある患者さまに対しては、次回受診までの間に電話連絡を行い、体調の確認を実施する。

開始してまだ期間が短い取り組みもありますが、診察の待ち時間の利用や信頼関係の構築が行え、スタッフ間の情報共有につながっており、徐々に成果が出て来ています。

外来では、いままでカルテに看護師の取り組みや記録を残す機会が少なかったのですが、このような取り組みの中で外来看護の見える化に取り組み、患者さまの想いやケアの継続につなげていきたいと思っています。

（外来看護師長　岡本　宏美）

診察室から
第 246 回

# ホスピス緩和ケアは人生の縮図

私は 2000 年 5 月に当院へ入職しホスピス病棟や在宅ホスピス（訪問診療）に携わらせていただき、早や 25 年が経ちました。ホスピスで働こうと思った最初の動機は、癌患者さまも増加していく中、身体の苦痛緩和はもちろん全人的に診られる医師になりたい（患者さまの体も心も生活も支えてあげたい）と思ったからでした。当院へ来る前に 2 年間勤務した高知の病院でも、ホスピス病棟で勤務していました。2000 年に開設された愛媛県下で初の当院のホスピス病棟は 20 床でスタートしました。最初の頃はフル稼働は少なく入退院もそれほど多くはなく緩やかな時間が流れていました。病棟のスタッフ（看護師・介護士他）は初めてのホスピス病棟ですので意気込みも強かったですが、ノウハウの蓄積が無いところからの出発ですからどのように対応したら良いか分からない場面もあり皆さん苦労されていたのではないでしょうか？
本やネット等の情報が少ない中、手探りで一生懸命、ホスピス医としては、薬剤コントロール（オピオイド・ステロイド・鎮痛補助剤等）を中心に「患者さまが少しでも楽に充実してお過ごしになれるように」とまず症状緩和を中心に支えていきました。なかなかうまく行かないときは責められているような気持ちになったり、「患者さまに笑顔が戻るようにするためにはどうしたら良いだろうか？」と、日夜悩んだことを覚えています。痛みが和らいでもその後はどう過ごしたら良いのか？というような患者さまもおられ、私が医師として対応させていただいたことが患者さま・ご家族にどれぐらい役立ったかは分かりません。医師然としていると患者さまも遠慮してなかなか本音は聞けません。医師が良かれと思ってしたことが、実は患者さまの苦痛になっていたということは往々にしてあります。スタッフへ本音を漏らされて医師に連絡があり医師としてもなるほどと思い、勉強させていただくこともあります。患者さまの生き様から学ばせていただくことは多く、「やはり人は生きて来たように最期も旅立たれる…」と実感しています。最近は、波はありますが入退院が目まぐるしく毎日が出会いと別れの連続です。日々新しい気持ちで患者さまと謙虚に向き合い、その方の生き方・価値観を尊重するという姿勢とご家族も安心して見守れるケアが大事かと思っています。

在宅ホスピスのエピソードとして思い出すこととしては、もう 10 数年前の看取り往診の時です。90 歳代の男性患者さまの自宅へ往診に伺ったとき、子・孫・ひ孫他大勢のご家族が取り囲んで「おじいちゃん…おじいちゃん…」と何度も名残惜しそうに呼びかけたり体を擦（さす）ったりしており、とても心あたたまる雰囲気でした。帰りの車の中で、「僕もああいう風に（孤独ではなく皆に囲まれて）看取られたいな…」と同行の看護師に言うと、「そうなるためには日頃からの心掛けが大事でしょうね…」と言われたのを覚えています。やはりそういうことか…と思った次第です。

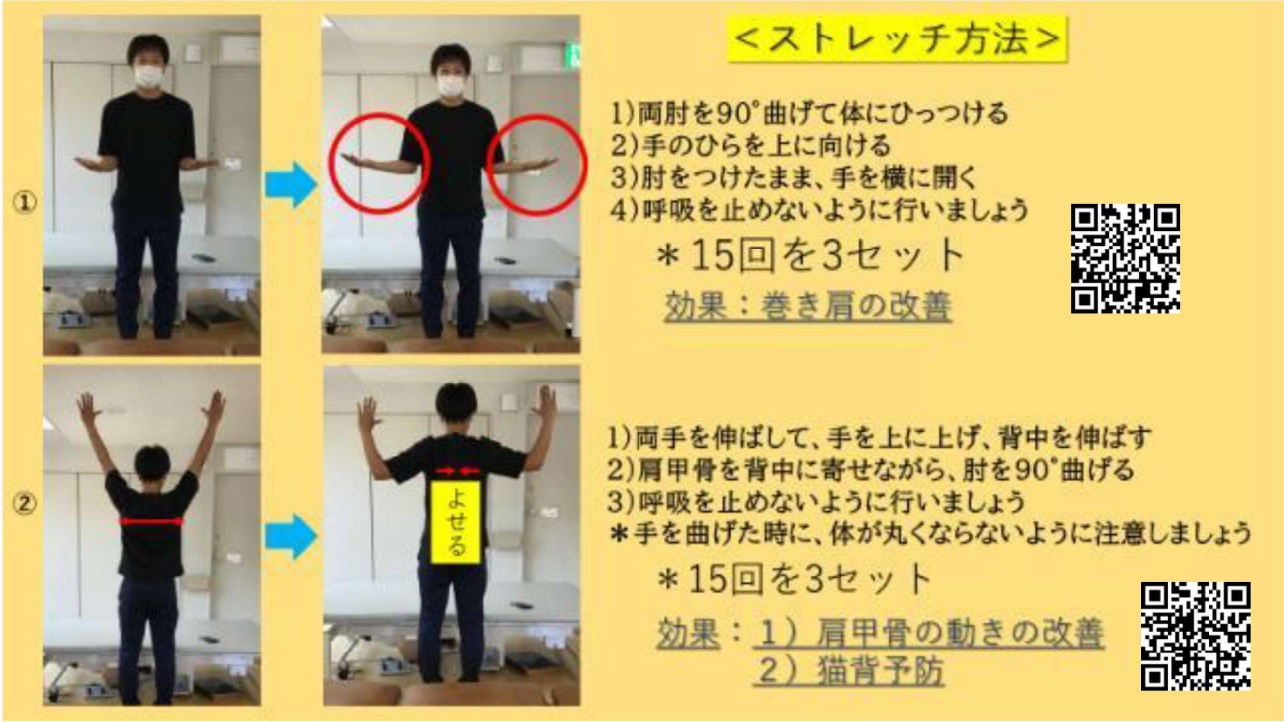
今後とも宜しくお願いいたします。

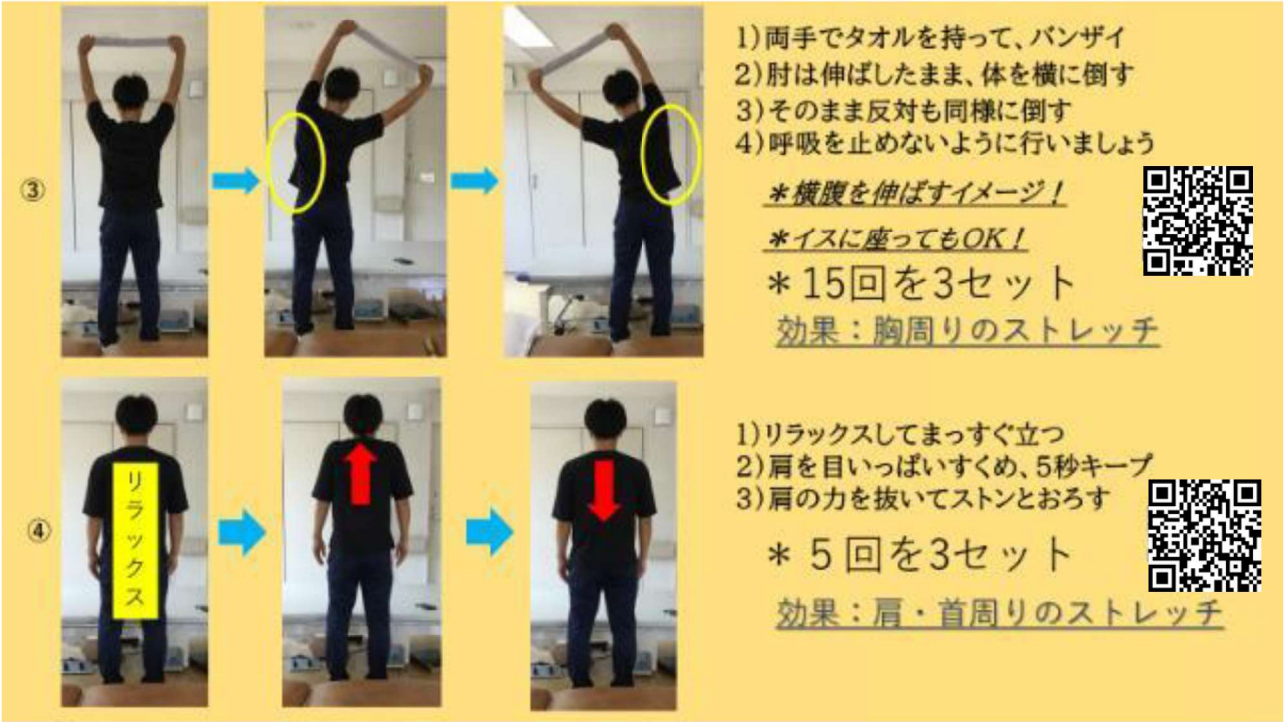
（　ホスピス・内科医師　佐々木　徹　）

# 肩こりについてわかりやすく解説　　PART　2

## ストレッチを行ってみましょう

いよいよ夏本番が迫っていますが、皆さまお身体の調子はいかがでしょうか。
前回に引き続き、今回は肩こりのストレッチについてお話してみたいと思います。




それぞれの運動は立って行うだけでなく、椅子等に腰かけて行っていただいてもかまいません。
自宅などで簡単に行えるものになっておりますので、試してみてください。

（理学療法士　　菅　義一郎）

# 外来診療日のお知らせ

◎豊田　泰孝 医師（精神科・心療内科）

８月６日（水）　８月２０日（水）

◎８月の休診

| | | |
|---|---|---|
| 佐々木　徹 | 医師（内　　科） | ８月　５日（火） |
| 中橋　　恒 | 医師（外　　科） | ８月　８日（金） |
| 益田　紀志雄 | 医師（整形外科） | ８月１３日（水） |

８月１５日（金）は
休診です。

マイクロバスも
全便運休となります。

松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

８月 接遇目標

二〇二五年　八月の接遇目標

さわやかな挨拶と
素敵な笑顔で
接しましょう。

聖愛会　接遇委員会

接遇委員会

７・８月 医療安全推進目標

医療安全委員会

## 新人紹介

山本　はる子

配属部署：４階病棟
職　　種：看護師
抱　　負：患者さまが少しでも心安らかな時間を過ごせるよう、日々学びながら精一杯努めていきたいと思います。

日時：８月 23 日（土）
場所：道後ベテルホーム正面玄関前
※縁日ゲーム・キッチンカー　16:00～
※ステージイベント　18:15～

詳しくは、道後ベテルホームの
ホームページ「イベント情報」を
ご覧ください。
多数のご参加をお待ちしております。

## ベテル句会

たくましく
生きた半生
にわか雨
（門田　眞由美）

山青葉
優し看護に
身体癒え
（瀬戸内　清風）

加藤　清

・投句箱を外来･各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。



発行日　2025 年 7 月 23 日